

都市再生協議会【公共空間再編専門部会】 第1回会合 議事概要

1 会合概要

開催日時：令和8年7月30日（木）15：00～17：00

開催場所：今治市みなと交流センター「はーばりー」1階 みなとホール

開催目的：中心市街地の公共空間デザインに関する検討

主なテーマ：広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について
中心市街地における関連する検討・取組について

2 発言概要

（1）広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について

①社会実験の実施期間について

- ・11/22（日）に「せとうちみなとマルシェ」が開催されるが、11/15（日）には一ぱりー周辺で「アミタリア愛媛」が開催されるため、実験期間の日曜日は常にイベントが実施されている状況になる。
- ・社会実験の期間について11/9-22で確定でよいのか。どのようにお知らせするか。

→11月の市の広報誌にて社会実験に関する情報を発信したい。

②社会実験の効果検証の調査方法について

- ・交通事業者への事前周知により、その後のヒアリング時にコメントをもらいやすいかと思うが、運送業者については事前に案内は行う想定はあるか。
- 社会実験の内容が確定し市民に公表するタイミングで、運送業者への周知を行うことを想定している。
- ・不特定多数の市民の方々からのパブリックコメントのような形での意見収集の仕組みは検討しているか。
- 社会実験を実際に体験した方からコメントをいただくことを想定している。

③市民向け説明資料再整備方針（案）について

- ・資料の構成について、市民の人達に社会実験に関心を持ってもらったうえで、広小路の整備の内容についても伝えられるような構成を検討して欲しい。

④沿道事業者との協議

- ・沿道ヒアリングについて、状況や反応を共有いただきたい。
- 2月上旬から開始し、数件連絡のつかない所もあったが、店舗・住宅を含め約80件にヒアリングを実施した。賛否だけでなく多様な意見があり、今後もコミュニケーションを取っていく。

（2）中心市街地における関連する検討・取組について

①各検討・取組の連携について

- ・各検討・取組がそれぞれ個別に進むのではなく、グランドデザインに基づき、

情報を共有して連携を進める体制、議論する場が必要。

- ・各施設の検討が進んだ段階では、公募時点とは周辺の状況も変化するかと思うが、施設の条件の変更がきかないことで、連携が難しくなるパターンも出るかと思う。臨機応変に条件を調整できるようにすることで、より連携しやすいかと思う。
- ・施設計画をする際には、使用が想定される事業者や団体にヒアリングを行い、必要な要素・機能を調査することで、実際に使いやすく、使用されやすい施設になるかと思う。
- ・広小路（今治港線）の検討が前年度から進んでおり、全体として良い方向に進んでいるように思う。内港改修のイメージが提示されたことにより、広小路（今治港線）の検討を進めつつ、シビックゾーンや水辺空間と一体となって連動していることが視覚的に伝わり、期待が持てる。一体的な構想について、市民にも説明していくことが重要。

②回遊について

- ・文化財保存活用計画の策定が進められているが、その中では、文化財を観光と結びつけて活用することが重要とされている。広小路から今治城へとつながるルートを形成する考え方は非常に重要であり、寺町への回遊ルートについても検討する必要がある。
- ・歴史的・文化的資源を広小路と結びつけながら回遊性を高めていく視点が重要。広小路を1本の背骨として、今治城や寺町、水辺へとネットワークが広がっていくまちづくりが望ましい

③コア会議について

- ・社会実験を契機に、市民が主体になってまちづくりを考えられる体制づくりを考えられると良い。

④MICE 施設

- ・MICE 施設については、バリシップなど、2年に1回の大きなイベントがある一方、それ以外の期間にどのように施設を稼働させていくかが大きな課題。令和8年度に基本計画の策定をするが、グランドデザインの大きな枠組みの中で、MICE 施設に求められる機能や役割を明確に整理し、その方向性を定めた上で整備・運用を進めていく必要がある。

⑤今治港港湾改修について

- ・内港の現況の広いスペースが活用されるようになると、マルシェの出店が広がり、今治城への回遊の動線もつながることができるかと思う。権利関係等、調整が必要な課題ではあるが、港町らしい魅力を高めるためには、できるだけ早く整備を進める必要があるかと思う。

⑥駅前広場

- ・i.i.imabari!推進課と今治あきない商社が、2月14日から3月29日までの期間で、今治駅前で観光案内所を活用した駅前Bari-ショップ、キッチンカーの出店による賑わい創出の実証実験を行ったが、周辺店舗から好評を受け、

JR 側でも乗車率が一定向上したとの結果が出ている。駅前バリショップは引き続きスポット開店し、キッチンカーは 9 月以降にも実施することが決定した。

⑦横丁構想

- 商店街の一角に、3m×4m 程度の店舗が 20 店舗程度が集積するような横丁の構想を立てており、社会実験にて、半分程度に縮小した形で 2 週間程度の模擬横丁の実験実施を検討している。1 店舗だけではなく、20 店舗が一体となって、にぎわいを生み出す空間にできればと考えている。また、その中のお店が実際に商店街の中などに店舗を開くなどの、にぎわいがまちなかに広がるような周辺への波及効果もねらいとしてある。2 年程度での整備を目標に検討中。